

総合的な学習の時間

令和6年度 授業改善のポイント

- 1 単元が探究的な学習として充実していくよう、全体計画及び年間指導計画を踏まえて三つの視点から学習活動を構想したり見直したりする。
- 2 児童生徒の課題意識や活動が連続し発展していくよう、単元の終わりまでに期待する児童生徒の姿を明確にして単元計画を作成する。

探究的な学習の質を高めるための計画の改善

【指導事例】「ふるさとの郷土芸能 すばらしさ発見！」（小学校第5学年）

単元の目標：郷土芸能に携わる方々との関わりを通して、地域の方々の郷土芸能に対する願いに気付くとともに、郷土芸能のよさを理解し、伝統の継承を願って自分にできることを考え、協働してよさや考えたことを伝えることができる。

単元計画作成の手順チャート

A
全体計画・年間指導計画を踏まえる

B
中心となる活動を思い描く



C
単元展開のイメージを思い描く

D
単元構想が実現可能か検討する

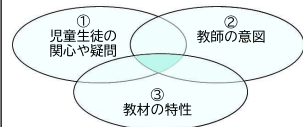
E
単元計画としての学習指導案を書き表す

F
単元の実践



重要 単元計画の作成や改善の手順は、左の「手順チャート」のようになります。Gの過程を基に、次のような取組を大切にしています。

1 三つの視点（①②③）から活動を構想したり見直したりする（A、B）



ポイント1 学校として既に十分な実践経験が蓄積され、毎年実施する価値のある単元でも、目の前の児童生徒の実態に即して改めて単元づくりを行い、探究的な学習の質を高めていきます。

①「児童生徒の関心や疑問」の視点

主体的な探究活動を目指し、観察や振り返りから実態を把握します。

ICT 振り返りをICT端末に蓄積しておくことで、実態や学習状況の把握を効率よく行うことができます。



②「教師の意図」の視点

活動を通して育成したい具体的な資質・能力を考えます。

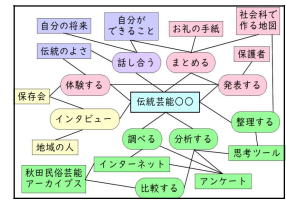
ポイント1 大まかな指導のイメージを学年部会等で話し合い、共有しておくことで、協働的な単元計画の作成につなげることが大切です。

③「教材の特性」の視点

教材としての広がりや学習対象、学習活動を拡散的に予測し、学習の可能性を広げます。

- T1：郷土芸能は4年生の社会科の学習である程度調べましたが、インタビューや体験活動はしていませんね。
- T2：秋田の民俗芸能を紹介しているサイトがあります。比べてみると郷土芸能のよさに気付くことができるかもしれませんね。
- T3：伝統を大切に思い活動している人は地域にたくさんいるので、広く交流する機会を設定できるといいですね。

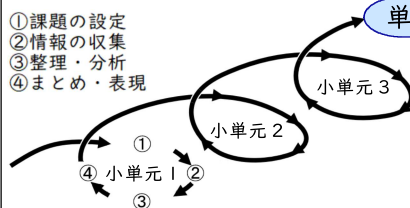
ICT デジタル付箋を使うと容易に修正、整理でき、比較や検討を協働的に行うことができます。



2 学習活動を小単元に位置付ける（C～E）

児童生徒の課題意識が連続し発展していくイメージをもち、順番や時数を考えて学習活動を各小単元に位置付けていきます。①～④は、順番が前後することや、複数のプロセスが一体化する場合があります。

- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ 整理・分析
- ④ まとめ・表現



ポイント2 全体計画の「探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力」と照らし合わせ、「単元の終わりまでに期待する児童生徒の姿」を明確にしておくことが大切です。

